

(3) 特筆すべき動物以外の動物相の事後調査

特筆すべき動物以外の動物相の事後調査については、環境の変化に敏感に反応すると考えられる種群であるとともに、定量的な調査方法がほぼ確立されて環境変化が数値として把握できると考えられる種群である鳥類を調査対象として、表 4.3-5に示す方法により、図 4.3-4に示す範囲で調査を実施する。

表4.3-5 動物相の事後調査実施計画（案）

調査項目	調査方法	調査時期
鳥類	ルートセンサス調査	年1回、6月



図4.3-4 動物相の事後調査 調査ルート（案）

4.3.3 ヨシ原移植後の事後調査計画

ヨシ原移植後の事後調査は、図 4.3-5に示す範囲においてヨシの健全性調査を行う。なお、ヨシ原移植後の事後調査の調査時期については、ヨシ地上部の成長が終了する時期とする。

なお、ヨシの生育状況調査については、次年度の健全性調査時の状況を踏まえ、平成28年またはそれ以降の調査を検討する。

表4.3-6 ヨシ原移植後の事後調査実施計画（案）

項目	内容
ヨシ原の健全性	調査時期：3年に1回。ヨシ地上部の成長が終了する10月とする。 調査箇所：B地区 調査方法：低高度空中写真を撮影し、空中写真をもとに、植生図を作成する。空中写真の撮影高度は、概ね一定とし、重ね合わせるにより精度高く経年変化を把握できるようにする。 評価方法：重ね合わせによる、群落分布の経年変化を確認する。競合種の被圧が生じていた場合には、除去等の対策を検討する。

1) 「ヨシ群落現存量等把握調査報告書(ヨシ群落調査編)」(1992 滋賀県生活環境部環境室)

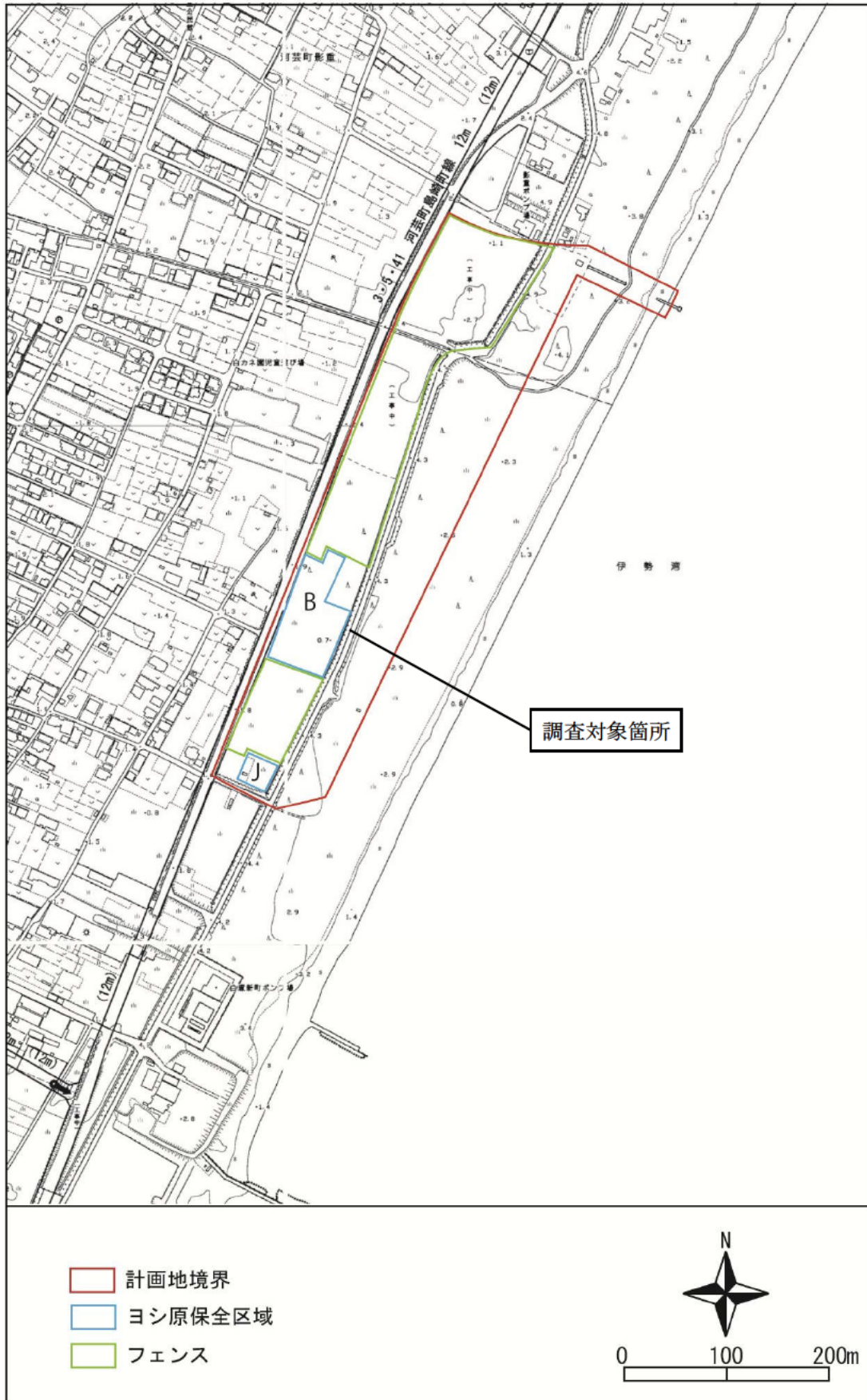


図4.3-5 ヨシ原移植後の事後調査範囲（案）

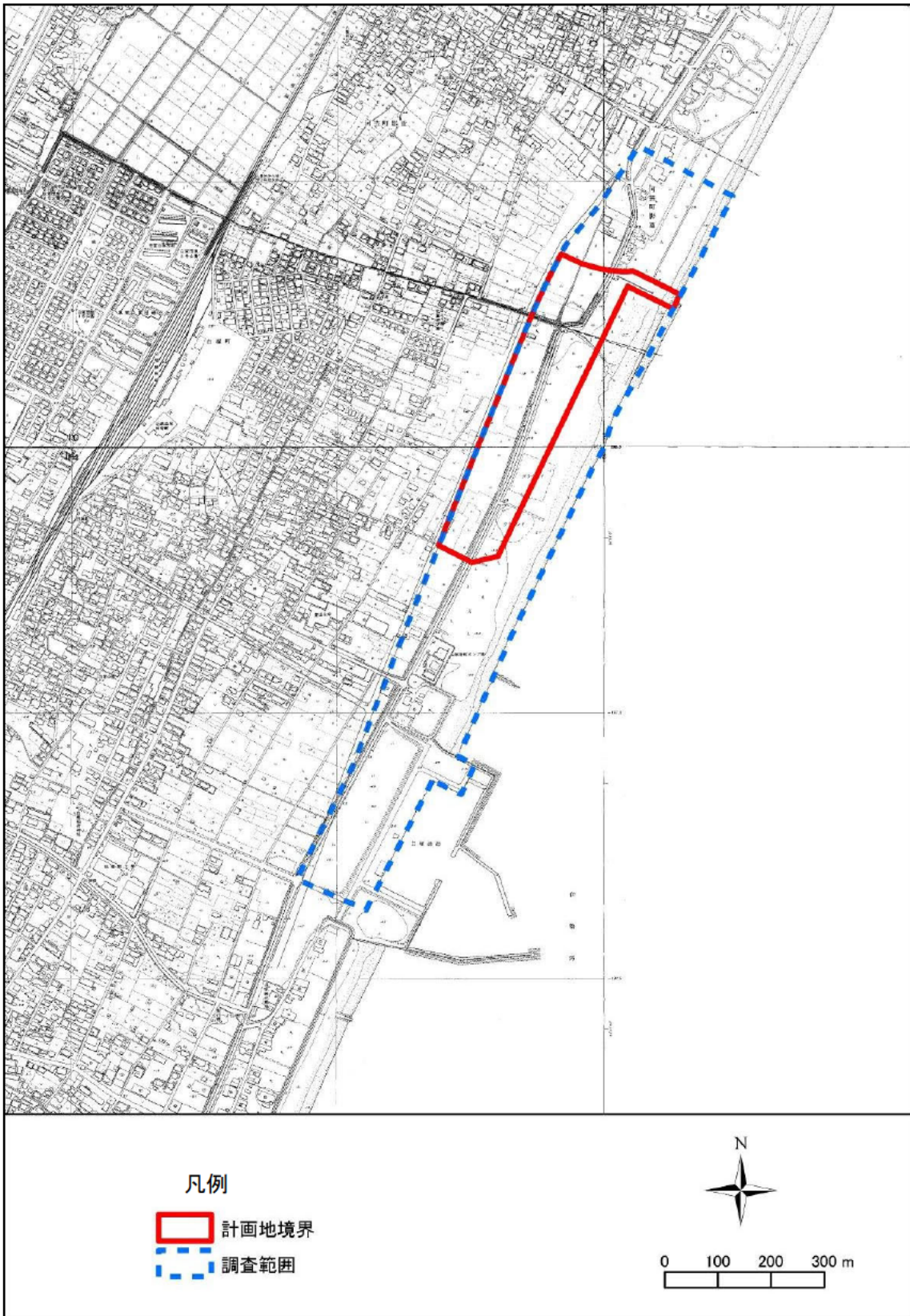


図4.3-3 特筆すべき植物・動物の調査範囲（案）